

危機意識をもち、安全な行動ができる子の育成

— 6年安全教育 けがの予防に向けた、集団指導と児童保健委員会の活動を通して—

米野小学校 大家 美香

1 主題設定理由

平成31年3月の学校安全資料『『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育 第1章総説 学校安全の意義』に次のように明記されている。「児童生徒等は守られるべき対象であることにとどまらず、学校教育活動全体を通じ、自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を継続的に育成していくことが求められており、自他の生命尊重の理念を基礎として、生涯にわたって健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献できるような資質・能力を育てることは、学校教育の重要な目標の一つである」とある。

本校は900人を超える大規模校である。休み時間には運動場が児童で埋め尽くされ鬼ごっこやドッジボールなど遊びに夢中になっている際の接触によるものや、アスファルトで走ってしまい転倒するけがなどが多く見られ、外科による来室が多い。

本研究における6年生は、4年生時に年間外科来室の割合が26.7%と全校で一番多かった学年であり、課題として休憩時間による不注意のけがが挙げられた。平成29年度に実施した「学校でのけがに関する実態調査」では、「よくけがをするか」の質問に対し、「はい」と回答した児童が43.8%と半数近い児童が自覚している結果となった。これらの現状を子ども自身が問題点と捉え行動変容へつなげるために、実態調査をもとに実践をしながら危機意識をもち安全な行動ができる児童の育成に向け研究を進めていくこととした。

2 研究の方法

(1) 目指す児童像

- ア 危ない行動に気付き、けがを予防する意識がもてる子
- イ 危険を回避して、周りにも目を配り、安全に行動できる子

(2) 研究の仮説

ア 仮説 I

集団指導を通して、危ない行動に気付くことで、ルールを守るなどけがを予防す

る意識をもつことができるだろう。

イ 仮説Ⅱ

児童保健委員会の活動を通して、けがを予防するための方法について理解し、けが予防の意識を継続させることで、周りにも目を配り、危険を回避した安全な行動ができるであろう。

(3) 研究の手だて

ア 仮説Ⅰに対する手だてⅠ 保健指導におけるけが予防

身体測定時の保健指導で、パワーポイントを使用して、実態調査の結果や危険予測、ルール of 再確認をすることで、危ない行動に気付き、ルールを守るなど、けがを予防する意識をもつことができるだろう。

イ 仮説Ⅱに対する手だてⅡ 児童保健委員会の活動によるけが予防

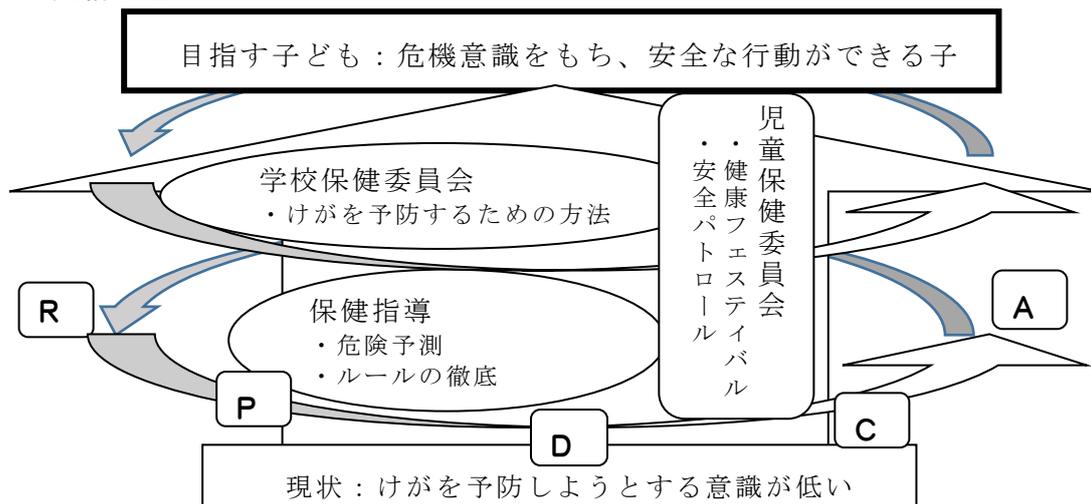
(ア) 児童保健委員会による健康フェスティバルや安全パトロールを実施することで、けが予防の意識を継続し、周りにも目を配り、危険を回避した安全な行動ができるであろう。

(イ) 学校保健委員会を通して、けがを予防するための方法について理解することで、日常生活に取り入れることができ、けがの予防につながるだろう。

(4) 検証計画

	内容	手だて	評価
平成 29 年度	実態把握 課題の検討 実践と振り返り	実態調査、実態調査分析 保健指導	調査分析による取組内容の明確化 児童・教職員による感想
平成 30 年度	実践と振り返り	保健指導 児童保健委員会の活動 学校保健委員会	
令和元年度	研究まとめ	実態調査、実態調査分析	

(5) 研究構想図



3 研究の実際

(1) 学校でのけがに関する実態調査

平成 29 年度に「学校でのけがに関する実態調査」（資料 1）を 4 年生に実施した。その結果、市内の同学年の児童と比較すると、「けがを防げると思う」「安全に行動している」「準備運動をしている」「教室で静かに過ごしている」などの質問に「はい」と答えた児童が少なく、けが予防に対する意識が低くルールを守れずけがにつながっている現状があった。

この調査結果をクロス集計したところ、「自分の努力によってけがを防げると思う」「いつも安全に行動している」「ルールを守っている」と回答した児童のほうが、「けがをしない」ということが明らかになった。その結果を踏まえ保健指導の内容を考え、実践した。

(2) 身体測定時の保健指導

ア 保健指導（平成 29 年度）

『危険を予測し、けがをふせごう』パワーポイントを使って、実態調査の結果や、けがの発生の多い場所・時間、よく起こるけがの種類や部位をクイズ形式で確認した後、階段や教室、運動場での危険予測を行った。危険予測では、実際の本校の階段や教室、運動場の写真を使用し、起こりうる危険を予測させた。その後教室や廊下・運動場のルールを再確認した。

アンケートの結果をグラフ化し、市内の結果と比較して表示することで、本校の良い点や悪い点を児童に分かりやすく提示することができた。また危険予測では、いつも目にしている階段や運動場、コンクリートやアスファルトの場所やブランコなどの写真を使用したため、子どもたちの反応もよく、活発に危険予測をすることができた。（資料 2）

児童の学校でのけがに関する実態調査 (小学4年生用)	
H29.6~H29.7 小牧市学校保健教育研究会	
みなさんへのおねがい	
この調査は、みなさんのけがについて聞いています。自分自身の考えにあうように、答えてください。 この調査で、みなさんに迷惑をかけることはありませんので、安心して答えてください。 【回答記入方法】①「はい」は「1」を、「いいえ」は「2」を選ぶ。②鉛筆で書くかこの数字を上からめる。 ③かっこからはみださない。	
1. あなたは、よくけがをしますか。	1 はい ・ 2 いいえ
2. 自分の工夫や努力によってけがを防げると思えますか。	1 はい ・ 2 いいえ
3. 自分はいつも安全に行動していると思いますか。	1 はい ・ 2 いいえ
4. 運動（体育・部活等）の前に準備運動をしっかりとしていますか。	1 はい ・ 2 いいえ
5. 水分はこまめにとっていますか。	1 はい ・ 2 いいえ
6. 廊下・階段を走らずに歩いていますか。	1 はい ・ 2 いいえ
7. 教室・特別教室で静かに過ごしていますか。	1 はい ・ 2 いいえ
8. 交通ルールを守っていますか。	1 はい ・ 2 いいえ
9. 運動場でのルールを守っていますか。	1 はい ・ 2 いいえ

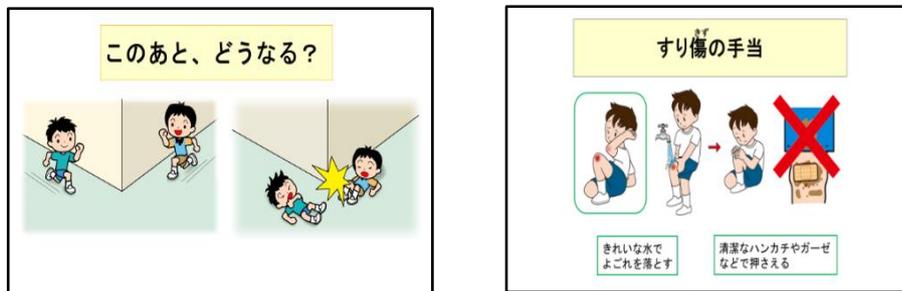
資料 1 学校でのけがに関する実態調査一部



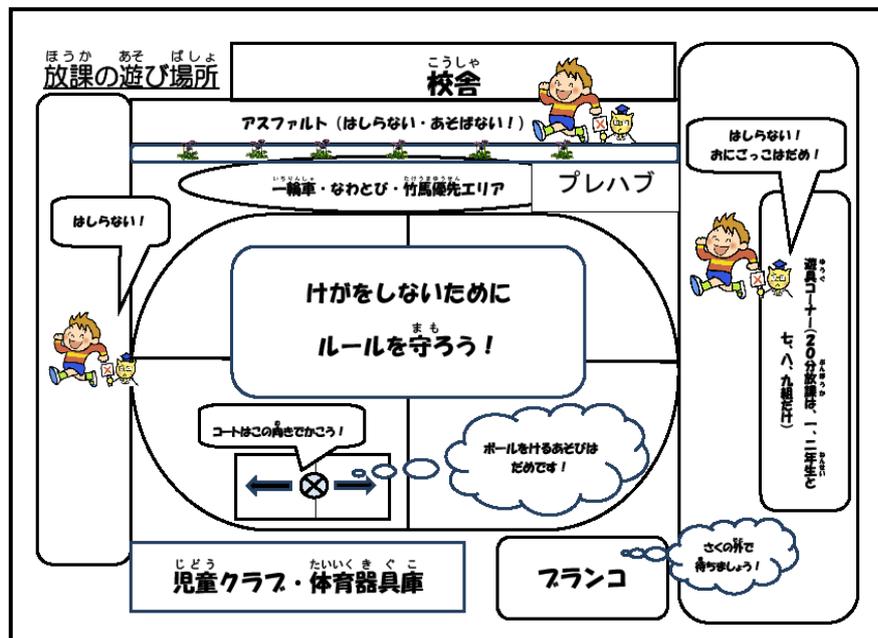
資料2 身体測定時の保健指導『危険を予測し、けがをふせごう』指導の様子とパワーポイント抜粋

イ 保健指導（平成30年度）『けがは防ぐことができる』

パワーポイント（資料3）を提示し、けがを防げると思っている人やけがをしない人は、ルールを守り安全に行動していることを伝え、再度危険予測を行い、けがの原因は不注意が多いこと、けがを防ぐためにできること、教室や廊下・階段、運動場のルール（資料4）が分かっているにもかかわらず守らなければ意味がないことを徹底した。さらに、けがをした時に自分でできる手当の仕方を確認した。



資料3 身体測定時の保健指導『けがは防ぐことができる』パワーポイント抜粋



資料4 運動場の使い方

実施後の振り返りで、けがを防ぐためにできることを聞いたところ、「落ち着いて生活する」「周りをよく見る」「ルールを守る」「コンクリートやアスファルトの場所で遊ばない」「準備運動をしっかりする」などと答えることができた。

(3) 児童保健委員会による活動

ア 今年度の活動テーマ決め

保健委員の児童に、今年度取り組みたい学校での課題について考えさせた。すると、けがの発生が多いことが挙げられたため、児童保健委員会としてできることを話し合った。活動を行う上で基盤となるテーマについて意見を出し合い、右記のテーマに決定した（資料5）。

保健集会時には、児童保健委員会による安全パトロールの実施について全校周知することで、けがの予防意識につなげた（資料6）。

イ 健康フェスティバル

児童保健委員会が企画し、全校児童にクイズラリーを通して、学校での安全やけがを予防しようとする気持ちを高める活動として行った。

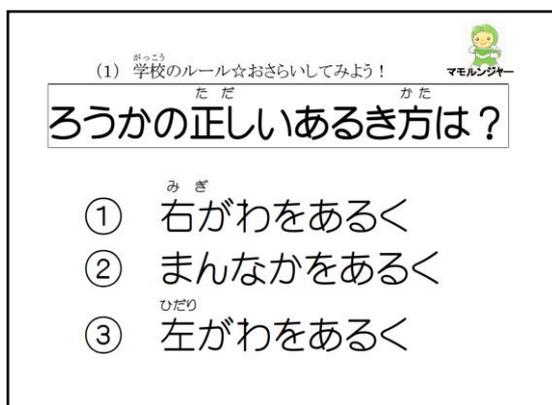
期間中の20分休みと昼休みの時間に、校内の掲示板にあるクイズ（資料7）を解き、10問全部できたら保健室へ解答用紙（資料8）を提出し、参加賞と交換するという手順で実施している。児童へは、廊下を走らない、時間・順番を守る、騒がないなどのルールを守って参加するよう呼びかけ、解答用紙に振り返り欄を設けた。



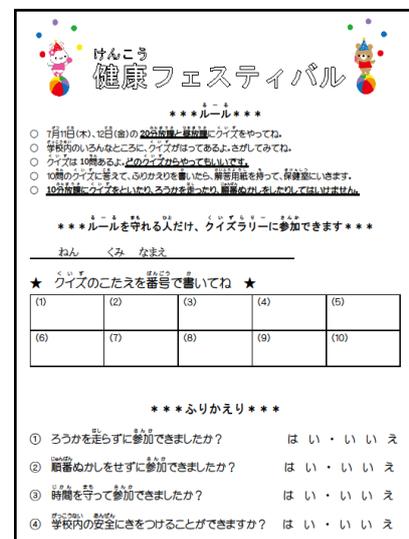
資料5 活動テーマ



資料6 保健集会

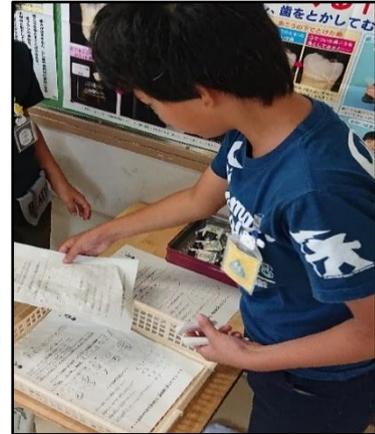


資料7 クイズ例



資料8 解答用紙

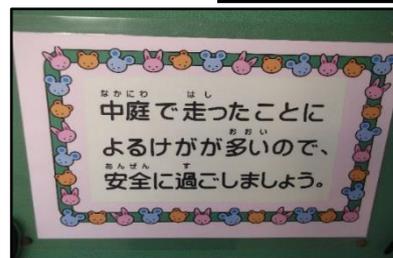
児童保健委員会は、誘導係、整列係、回収・参加賞渡し、○付け係など役割分担を行い、運営を行った(資料9)。健康フェスティバルを終えた保健委員会の児童は、89.5%が安全に気をつけて行動する人が増えた、94.7%がけがが減ってきたと思うと答えた。自分たちの活動が、全校の児童へ伝わっていることを感じる事ができたようである。



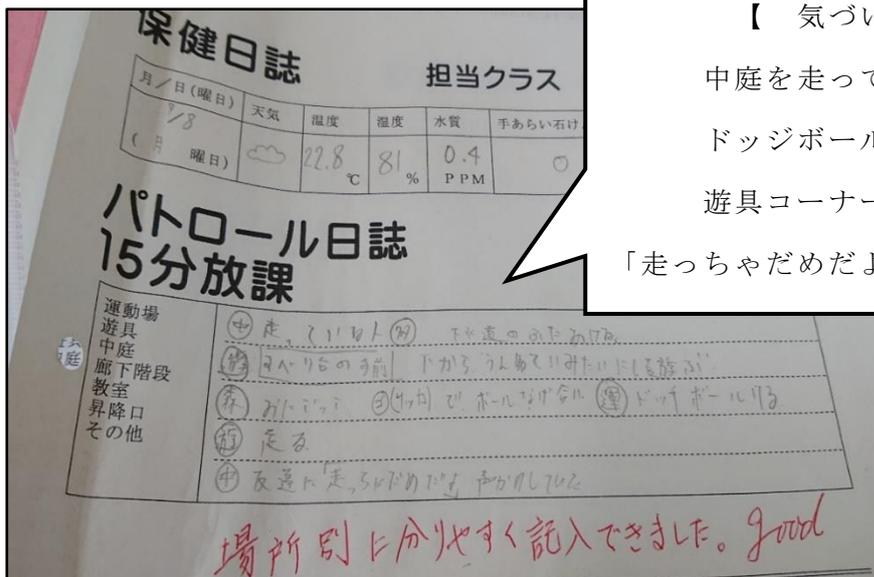
資料9 健康フェスティバルの様子

ウ 安全パトロール

休み時間に保健委員が、黄色いビブスに「安全パトロール」と記載したものを着用し(資料10)、中庭、運動場、遊具コーナーを周り、安全パトロールを行うことで安全な過ごし方を意識させた。雨天時には安全な過ごし方を呼びかけながら、校内の安全パトロールを行った。その際、気がついたことをパトロール日誌(資料11)に記入し、全校へ周知するために掲示物にして、目で見て分かる資料とした。活動テーマとともに、パトロールで見つけた危ない行動や注意喚起の言葉を文字にして保健室前の廊下へ掲示することで、現状を伝え行動改善につなげる視覚教材とした。



資料10 児童保健委員会による安全パトロール、廊下掲示



【 気づいたこと 】

中庭を走っている人が多い
ドッジボールをけている
遊具コーナーで走っている
「走っちゃだめだよ」と声かけしていた

資料 11 パトロール日誌

また、けが発生の可能性がある場所に
掲示物を貼り、危険箇所であることを明
示した。合わせて、学校の敷地内でのけ
が発生の危険場所を表したひやりマップ
(資料 12) の作成を行い、昇降口付近に
掲示することで、注意を促した。

さらに、児童保健委員会と同様に、児
童生活委員会が校内をパトロールする活
動を行ったことで、全校児童の安全に対
する意識を高めることにつながった。

児童保健委員会が安全パトロールを続
けることで、危険な行動だけでなくルー
ルを守って安全に過ごしている姿を見つ
けることもできるようになったり、けが
をして泣いている児童へ声をかけ、寄り

添って話を聴く高学年の姿を見ることができたりするようになってきたことがよ
い成果である。

(4) 学校保健委員会

学校保健委員会では、児童保健委員会による調査結果の発表を行い、現状を把握さ



資料 12 ひやりマップ

せた後、外部講師による「けがをしない体づくり」を演題に姿勢体操を行い、けが予防への意識を高めた。

学校保健委員会後の振り返りでは、「けがをしない体づくり」について78.0%の児童が「よく分かった」と答えており、「まあまあ分かった」と合わせると、98.0%がけがを防ぐための健康な体づくりや生活習慣について理解できた。

後日、保健だよりを通じてクラスで継続指導を行い、内容や児童の感想などを保護者へ伝える手だてとした（資料13）。

自分の体を守るために、運動・睡眠・栄養が大事だと分かった。これからも、生活に気をつけて過ごしたい。

けがは、睡眠・運動・栄養、また姿勢などに関わっていることが分かった。睡眠を多くとり、運動して健康な体をつくり、ご飯をしっかりと食べて栄養をとり、姿勢をよくすることで、けがが少し防げるので、しっかりと行っていきたい。



資料13 学校保健委員会の感想と様子

(5) 保健指導部での検討

保健指導部において、災害発生時の外科来室時の記録用紙と災害発生時の共通理解について検討を行った。外科での来室時に記入する記録用紙に、再発防止に向けてけがの原因が何だったのか、同じけがをしないために、自分にできることは何かを振り返り、記入する欄（資料14）を設けることとした。

② はなぢがでたひと、はなをつまんできましたか。	はい ・ いいえ
③ やけどをしたひと、みずでひやしてきましたか。	はい ・ いいえ
★ けがのげんいんはなにかな？○をつけて、げんいんをかこう！ たいじんかんけい ふちゅうい ルールをまもらなかった その他	
[]
★ おなじけがをしないためにはどうしたらいいかな。	
[]

資料14 保健室外科来室時の記録用紙

その結果、以前は同じけがを繰り返すことの多かった児童が、自分の言葉で伝えることができるようになり、自分の行動を振り返ることで同じけがで来室することがなくなった（資料15）。

また、災害が発生した時には、職員打合せで報告をすることで管理体制を見直し

児童への啓発につなげ、再発防止に努めている。

けがの原因…「ルールを守らなかった」ため遊具コーナーで走っていて
人にぶつかった
同じけがをしないために…遊具コーナーでは走らない

資料 15 保健室外科来室時の記録 例

4 研究の成果

(1) 仮説Ⅰについての成果

ア 手だてⅠについて

身体測定時の保健指導実施後の振り返りでは、「けがは予防できることが分かった」が 99.4%、「室内や運動場での過ごし方がわかった」が 98.2%となった。また、けがを防ぐためにできることとして、「ルールを守る」「まわりをよく見る」などと答え、危ない行動に気づき、けがを予防する意識を持つことができた。

また、担任への調査「安全への意識や実態に問題を感じているか」では 58.6%が問題を感じていると回答しており、「保健指導は児童に有効だったか」では 82.1%が有効と回答した。担任も問題意識を感じているため、「興味をもって聞いていた」「担任だけではなく養護教諭からも話があると、より説得力をもって聞く」などの意見があり、多方面からの声かけが有効であると言える。

実態調査の結果を市内と比較したことや、いつも目にしている場所を危険予測として取り入れたこと、ルールをパワーポイントで分かりやすく提示したことが意識の向上に役立った。

(2) 仮説Ⅱについての成果

ア 手だてⅡ(ア)について

児童保健委員会の意識調査では、「安全に過ごすことの大切さを伝えることができた」が 89.7%、「けがの予防につながった」では全員が「そう思う」「まあまあ思う」と答えた。また、「パトロールしてよかったと思うこと」として、「注意したら走ることをやめたこと」「けがが少なくなってきたこと」「安全に気をつけている人がいたこと」「みんながこれはやってはいけないと分かってきたこと」という意見があった。児童が意識しながら取り組むことで有効な活動となった。児童保健委員会が安全パトロールを続けることで、危険な行動が減ってきたことを児童たち自身が感じており、他の委員会と連携して活動するなど、けが予防の意識を継続させ、自

分だけでなく周りにも目を向けることができるようになってきた。

イ 手だてⅡ(イ)について

学校保健委員会では、「よく分かった」「まあまあ分かった」を合わせて 98.0%の児童が内容を理解することができていた。また、児童の感想からは、けがの予防に向けて、姿勢や生活習慣を見直す必要性を感じていることが分かり有効であったと言える。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
全校外科来室件数 4 月～6 月 (件)	491	413	212
全校外科来室件数 4 月～6 月 6 年生割合 (%)	25.1	20.1	12.7

全校の外科来室数を見ると、平成 29 年度 4 月～6 月に 491 件あった来室が今年度同時期には 212 件と減少し、外科来室数のうち 6 年生の割合は 25.1%が 12.7%と 12.4%減少した。

児童保健委員会の 89.5%は、「みんなが安全に過ごすために呼びかけができた」と答え、「注意をしたら聞いてくれるようになった」と感じている。他児童の様子では、「走ってはだめだよ」と声をかける姿や、安全に過ごそうと注意している様子を安全パトロールを通して、児童保健委員が感じているなど効果的であったと言える。

また、以前はけがが発生した時に的確な対応をすることができず、けがの状況を確認することや、自分ができる応急手当をせずに来室する児童が目立ったが、高学年を中心に、部位を確認し水で洗うことや、水で冷やすことをしてから来室する様子が見られるようになった。さらに、自分のことだけでなく、けがをした児童に対し、「まず洗うんだよ」「水で冷やして」と声をかける姿が見られるようになるなど、周りの児童に目を配る様子も見られるようになった。

5 今後の課題

今回の研究を通して、軽微なけがについては減少傾向が見られた。しかし、スポーツ振興センターに関わる骨折などの大きなけがは現状維持に留まっており、意識や行動が継続するような手段を用いて、児童や家庭へ向け知識や情報を発信し、生きて働く知識となるよう努めたい。